

組織外コミュニティが促す大学職員のキャリアと能力開発への影響

山田 尚彦(新潟大学 総務部 専門幹(事務職員高度化、研究開発マネジメント人材制度担当))

満田 清恵(中京大学 教学部教務センター豊田オフィス 係長)

野田 智子(神戸大学 企画部企画課 課長補佐(兼)医学部新研究科等設置準備事務室長)

大竹 秀和(立教大学 教務部学部事務 5 課(コミュニティ福祉学部担当) 課長補佐)

講師略歴

【山田尚彦】昭和61年長岡技術科学大学に採用された後、平成2年に新潟大学に転任。人事課、研究推進課等に在職し、広報室長、総務課長等を経験した後、自然科学系事務部長を経て令和7年4月から現職。長年、学内で事務職員の研修の企画・実施をはじめとする人材育成業務に関わりながら、平成30年に大学職員有志による勉強会「アツい大学人の会」を立ち上げ、全国の若手・中堅職員に学びの場を提供している。

【満田清恵】平成17年国立大学法人愛知教育大学にパート職員として採用され、平成19年第一期内部登用試験に合格し専任職員となる。法人運営企画課や秘書広報課など幅広い業務を経験。学生FDの立ち上げなど教育改善業務に携わる。FDの企画・実施を通じて職員の能力開発への関心を深め、学内で自主勉強会を立ち上げるとともに、学外の勉強会や研修に積極的に参加。社会人の学びに関心が高まり名古屋大学大学院教育発達科学研究科に進学。修士(教育)。平成28年中京大学へ転職。大学院進学を機に名古屋SD研究会や大学教務実践研究会に運営協力者として参画し、組織外コミュニティから自身が活力を得る日々である。

【野田智子】平成16年国立大学法人京都大学に入職後、主に企画系業務に従事。平成30年に神戸大学に転籍後、総務部人事課、企画部企画課を経て令和6年7月から現職。これまで、大学コンソーシアム京都事務局への出向、国立大学一般職員会議(コクダイパン会議)の実行委員、名古屋大学大学院教育発達科学研究科への社会人入学等、組織外コミュニティに関わる機会を多く得てきた。

【大竹秀和】平成15年学校法人立教学院に入職後、学生支援、教務、国際化推進等の業務を担う。主に、大学間連携教育プログラム、立教型リーダーシップ教育プログラム(GLP)、英語学位コース(GLAP)の開設等を担当し、令和5年6月より現職。入職以降、学内外の大学職員有志勉強会に参加し、現在は複数の会の運営に携わる。学内勉強会活動の関連書籍として「21世紀の大学:職員の希望とリテラシー」(共編著)。修士(大学アドミニストレーション)。

プログラム概要

社会の急速な変化に伴い、大学職員は、教学・経営の様々な分野で多様な能力や知識、経験が求められるようになった。

近年「キャリア自律」という考え方が着目されている。組織に依存し過ぎず、自らのキャリア構築と学習を主体的かつ継続的に取り組むという考え方であり、大学職員においても、所属組織を超えた「越境学習」や「サードプレイス」での学びや交流が、キャリア自律を促し、職員の能力開発にも影響を与えている。

本企画は、大学職員のキャリア自律と能力開発にとって「越境学習」の場となる、組織外のコミュニティに着目する。「SD(Staff Development)」という言葉が使われてから約四半世紀が経ち、

大学職員の組織外コミュニティは勉強会、研究会をはじめとした様々なものが生まれてきた。その変遷を捉えなおすとともに、このような活動に関わり、キャリア自律を実践している講師の話題提供を踏まえ、参加者一人一人が自身のキャリア自律と能力開発への、組織外の大学職員関連コミュニティとの関連・影響について考える機会とする。

準備物・事前課題

過去にどのような学内外のコミュニティや勉強会に参加したり関わったりしたことがあるか、また、これまで学内外の大学職員コミュニティに参加したことがない方は、参加してみたいコミュニティを事前課題としてまとめていただきますので、申込者には別途ご連絡させていただきます。

主な受講対象者

・大学事務職員等（大学等の設置形態は問いません。）

到達目標

1. 大学職員の学外コミュニティにどのようなものがあるかを理解することができる。
2. 学びの場で得た知識や経験がどのようにキャリアに影響を与えるか理解することができる。
3. 自身のこれまでの学内外での学びの体験・経験を言語化しアウトプットすることができる。
4. 学びの場で得たものを他者にも波及させる必要性が理解できる。
5. 学びの場で構築した人的ネットワークの活用方法を知ることができる。